

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	千葉県地域水産業再生委員会内湾地区部会
代表者名	内湾地区部会長 佐久間 國治（富津漁業協同組合代表理事組合長）

再生委員会構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・市川市、船橋市、牛込、金田、久津間、江川、木更津市中里、木更津、富津、新富津、富津市下洲、大佐和、天羽の各漁業協同組合 ・市川市、船橋市、木更津市、富津市の各水産主務課 ・千葉県（水産課、漁業資源課） ・千葉県漁業協同組合連合会
オブザーバー	千葉県水産総合研究センター

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>①地域の範囲：船橋市（船橋市漁業協同組合管内）</p> <p>②漁業の種類及び就業者数</p> <p>採貝漁業：123人、小型底曳き網漁業：36人、まき網漁業：3人</p>
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

船橋市の主要な漁業は、地先の浅海域を漁場とする採貝漁業及びのり養殖業と東京湾のほぼ全域で操業するまき網漁業と小型底曳き網漁業である。

採貝漁業の主な魚種はホンビノスガイ、アサリである。ホンビノスガイの漁獲量は近年急増し1,000t以上が揚がっている。三番瀬干潟で漁獲されるアサリは当地を代表する水産物として高い知名度を有するが、その資源量は減少傾向にある。また、漁場が青潮や出水の影響を受けやすいこともあり、そうした年には極度の漁獲不調に陥りやすい。

アサリ漁場においては、平成25年度より水産多面的機能発揮対策事業を活用して、漁業者による干潟の保全、青潮監視等の活動が行われ、碎石覆砂等によるアサリの増殖効果及び青潮、出水等の被害低減効果等、成果を得つつある。

まき網漁業、小型底曳き網漁業ではスズキ、コノシロ（コハダ）、カレイ類等が主に漁獲されている。当市のスズキ、コノシロの漁獲量は県内生産量のそれぞれ41%、53%を占め、両魚種とも漁協単位の生産量としては全国一である。

一方でまき網漁業、小型底曳き網漁業の漁船には高船齢のものが多く、最新の漁船に比べると漁獲性能や燃費の面で劣っている。

また、漁獲量の大幅な増加が期待しにくいなかで、漁業者は6次産業化への取組等を通して魚価の向上に努めているが、現行の製氷施設では高度な鮮度保持に必要な氷を供給す

ることが困難であり、製氷機の性能向上、規模拡大が喫緊の課題となっている。老朽化した現施設は故障やメンテナンスで休止することも多く、必要な量の氷を調達することができず、操業時間の短縮を余儀なくされたり、漁獲物を十分冷却できないなどの問題が生じている。

平成 18 年度に 216 名であった船橋市漁協の組合員数は、平成 28 年度には 155 人にまで減少している。船橋市は平成 26 年度から漁業後継者対策事業等、担い手確保のための事業で漁家の子弟や外部からの新規就業者への支援を行っており、事業開始後の漁協組合員の減少傾向は事業前に比べて鈍化している。

(2) その他の関連する現状等

船橋市の漁業には江戸前の水産物を首都住民に提供し続けてきた長い歴史がある。

また、現在では大きな背後人口を有する強みを生かして、漁獲物のブランド化、直接販売、PR 活動等による高付加価値化の取組が行われ、ホンビノスガイは「三番瀬産ホンビノス貝」として、スズキは「江戸前船橋瞬めすずき」として千葉ブランド水産物に認定されている。そして、これらの取組みの成果として、スズキ、ホンビノスガイ、アサリに関しては近年、魚価が上昇している。

(※ 瞬め：活魚で水揚げしたスズキを活めし、神経抜き処理をしたもの)

一方で主要魚種のスズキ、コノシロ、カレイ類の東京湾における資源水準は中～低位にある。このことを漁業者は操業を通して実感しており、千葉県漁業調整規則の遵守に加え、漁業者の自主的な取組（船橋市漁協資源管理計画）等により資源保護に取組んでいる。さらに船橋市漁協資源管理計画ではマダイ、ヒラメの種苗放流事業への積極的な参画を唱えている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

漁業収入向上のための取組

① 漁業生産の安定化

- ・アサリ等貝類の安定生産のため、青潮、出水等の漁場環境阻害要因に対応した採貝漁場の造成・改良を行う。また、アカエイ等の食害生物の駆除を行う。
- ・氷不足により操業時間が短縮されることがないように、現在の製氷施設を製氷能力の高い施設に更新する。
- ・船橋市漁協資源管理計画に基づく取組等により資源を適切に保護し、その再生産力により安定的な漁業生産を持続させる。

② 品質管理の向上

- ・漁獲物の冷却に十分な氷を使用できるように、現在の製氷施設を製氷能力の高い施設に更新する。

・船体の新造、機関の換装等による漁獲性能の向上により作業時間を短縮させ、陸揚げ後の魚体選別、瞬め、施氷等の作業時間を増やし、漁獲物の品質向上に努める。

③ 消費拡大対策

・漁協直営店「三番瀬みなとや」における消費者への直接販売やPRイベント、販売フェア、漁業体験等、背後人口の多さを生かした船橋の魚の宣伝及び魚食普及活動を推進する。

④ 低・未利用資源の活用

・採貝漁場の碎石覆砂の試験区ではモガイ（標準和名：サルボウ）の繁殖など貝類資源の増殖が確認されていることから、碎石覆砂の漁場整備を実施することにより発生した低・未利用資源の有効活用を図る。

・採貝漁場において食害生物駆除で採捕したアカエイを販売する。

⑤ 漁業就業者の確保・育成

・漁業就業者数が減少していることから、国及び千葉県の新規漁業者対策事業並びに船橋市の漁業後継者対策事業等を活用し、新規漁業就業者の確保・育成に取り組む。

漁業コスト削減のための取組

① 燃油高騰に対する備え

・燃油急騰による漁業経費の増加に備えるため、漁協は漁業者の漁業経営セーフティネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。

② 省燃油活動の推進

・国のリース事業等を活用して漁船船体、機関の更新を図り、燃費を向上させる。
・定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、不要不急の船内積載物の除去による船体の軽量化、減速走行の徹底等を実施して燃油消費量を減らす。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

・千葉県漁業調整規則：第37条（体長等の制限）、第40条（漁具の制限）、第43条（禁止区域等）

・船橋市漁業協同組合資源管理計画（まき網漁業における休漁期間（2月）、小型底曳き網漁業における週2回の休漁日の設定、まき網漁業及び小型底曳き網漁業におけるマダイ、ヒラメ種苗放流費の負担）

(3) 具体的な取組内容

1年目（令和2年度） 以下の取組により漁業所得を基準年比2.8%向上させる。

漁業収入向上の
ための取組

① 漁業生産の安定化（資源管理を含む）

・漁協の活動グループは、アサリ漁場改良試験において新たな試験区を設け、過年度に設置した試験区と併せてアサリ等貝類の生息状況をモニ

タリングする。

・漁協の活動グループは、貝類の食害生物であるアカエイの駆除方法を検討する。

・漁協は、青潮、出水等の環境変化に対応した採貝漁業の協議会を設立し、効率的な漁場の整備・利用方法を検討する。

・漁協は氷不足を解消するために必要な製氷機の製氷能力、規模等を検討する。

・漁協及び漁業者は、船橋市漁協資源管理計画に基づく取組を継続する。

② 品質管理の向上

・瞬めしたスズキの単価は無処理のものに比べて単価が大幅に上がることから、漁業者と仲買業者は連携してより多くの個体で瞬めを行うよう努める。

③ 消費拡大対策

漁協は千葉県や船橋市等との連携のもと、膨大な背後人口を念頭に置いた消費拡大策を以下のとおり実施する。

・漁協は水産物直売施設「三番瀬みなとや」において従来の販売品目である生鮮魚介類、加工品の販売量を増やすとともに、ホンピノスガイのフライやコノシロ、スズキの寿司等の軽食類の販売強化に努める。また、現行の出張販売を継続し、船橋の水産物の知名度向上と消費圏域の拡大に努める。

・漁協は千葉県や船橋市と連携して、千葉ブランド水産物（三番瀬産ホンピノス貝、江戸前船橋瞬めスズキ）のPRイベントや小学生の漁業体験を行い、船橋の水産物のファンを増やす。

・漁協は地元の飲食店や商工会等との連携により、地場水産物のメニュー化やフェア開催等で船橋の水産物の認知度を高め、新たな販路開拓につなげる。

④ 低・未利用資源の活用

・漁協の活動グループはアサリ漁場の碎石覆砂試験区に生息する貝類資源（モガイ等）の状況を調査し、有効活用できる資源の検討を行う。

⑤ 漁業就業者の確保・育成

・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会（構成員は県水産課、県漁連、県教育庁、県漁業就業者確保育成センター）及び船橋市と連携して、担い手対策の事業を活用することで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油高騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業経費の増加に備えるため、漁協は漁業者の漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は国のリース事業等を活用して漁船船体、機関の更新を図り、燃費を向上させる。 ・漁業者は定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、不要不急の船内積載物の除去、減速走行の徹底等を実施して燃油消費量を減らす。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業 ・水産物ブランド推進事業（市） ・漁業後継者対策事業（市） ・新規漁業者対策事業（市） ・新規漁業者研修受入事業（市） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ・競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・漁業経営セーフティーネット構築事業

2年目（令和3年度） 以下の取組により漁業所得を基準年比4.1%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① 漁業生産の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度創設の採貝の協議会は現地調査等の結果を踏まえ、漁場整備について検討する。 ・協議会は青潮、出水等による被害を軽減させるための漁場利用方法を具体化する（被害発生前の漁獲、移植等）。 ・漁協の活動グループは、水産多面的機能発揮対策事業を活用して底曳き網によるアカエイの駆除を行う。 ・漁協は新たな製氷施設を建設することにより製氷能力を増強し、豊漁時に氷不足による操業制限等が生じないようにする（秋以降の着工を予定）。 ・漁協及び漁業者は、船橋市漁協資源管理計画に基づく取組内容を継続させる。 <p>② 品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製氷施設の更新により氷不足が解消され、漁獲及び流通段階における漁獲物の品質を向上させる。 ・漁業者と仲買業者は連携して、引き続き、スズキの瞬β率（スズキ漁獲量に対する瞬βスズキ取扱量の割合）を引き上げる。
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・漁船更新による漁獲性能の向上を受けて漁業者は、操業時間の短縮に努め、陸揚げ後の魚体選別、瞬氷、施氷等の作業時間を増やす。 ③ 消費拡大対策 <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、引き続き水産物直売施設「三番瀬みなとや」において生鮮魚介類及び水産加工品の販売量を増やすとともに、ホンピノスガイのフライやコノシロ、スズキの寿司等の軽食類の販売促進に努める。また、現行の出張販売を継続し、船橋の水産物の知名度向上と消費圏域の拡大に努める。 ・漁協は千葉県や船橋市と連携して、引き続き千葉ブランド水産物（三番瀬産ホンピノス貝、江戸前船橋瞬氷スズキ）のPRイベントや小学生の漁業体験を行い、船橋の水産物ファンを増やす。 ・漁協は、引き続き地元の飲食店や商工会等との連携により、地場水産物のメニュー化やフェア開催等で船橋の水産物の認知度を高め、新たな販路開拓につなげる。 ④ 低・未利用資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は砕石覆砂試験区で利用可能な低・未利用資源の有効活用を千葉県水産総合研究センターと連携して検討する。 ・漁協は、採貝漁場において採捕したアカエイの販売方法を検討する。 ⑤ 漁業就業者の確保・育成 <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会及び船橋市と連携して、担い手対策の事業を活用することで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 燃油高騰に対する備え <ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業経費の増加に備えるため、漁協は漁業者の漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。 ② 省燃油活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は国のリース事業等を活用して漁船船体、機関の更新を図り、燃費を向上させる。 ・漁業者は定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、不要不急の船内積載物の除去、減速走行の徹底等を実施して燃油消費量を減らす。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業 ・水産物ブランド推進事業（市） ・水産業強化支援事業 ・漁業後継者対策事業（市） ・新規漁業者対策事業（市） ・新規漁業者研修受入事業（市）

	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ・競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・漁業経営セーフティーネット構築事業
--	---

3年目（令和4年度） 以下の取組により漁業所得を基準年比8.6%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① 漁業生産の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、碎石覆砂を行うため、水産環境整備事業等の漁場整備事業により測量試験を行う。 ・漁協は、採貝漁場においてアカエイの駆除を目的とした試験操業を行う。 ・漁協は、新たな製氷施設を期首から稼働させ、氷不足による操業時間短縮等の問題点を解消させる。 ・氷販売量の増加、製氷施設ランニングコスト低減等による収益増が見込まれる漁協は漁業振興に努める。 ・漁協及び漁業者は、船橋市漁業資源管理計画に基づく取組内容を継続させる。 <p>② 品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、新たな製氷施設を期首から稼働させ、漁獲から出荷までの一貫した鮮度保持体制の構築を図る。 ・漁業者及び仲買業者は、千葉ブランド水産物の「三番瀬産ホンビノス貝」、「江戸前船橋瞬めすずき」に関しては、十分な施氷を行い、更なる品質向上を目指す。 ・漁業者は、引き続き漁船の更新による漁獲性能の向上をもって操業時間を短縮させ、漁獲物の品質向上のための作業時間を増やす。 ・漁業者及び仲買業者は、瞬めするスズキの量を前年度水準で維持する。 <p>③ 消費拡大対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、引き続き水産物直売施設「三番瀬みなとや」において生鮮魚介類及び水産加工品の販売量を増やすとともに、ホンビノスガイ、スズキ、コノシロ等の調理品を充実させる。また、引き続き新たな地域で出張販売を行い、船橋の水産物の知名度向上と消費圏域の拡大に努める。 ・漁協は千葉県や船橋市と連携して、引き続き千葉ブランド水産物（三番瀬産ホンビノス貝、江戸前船橋瞬めすずき）のPRイベントや小学生の漁業体験を行い、船橋の水産物ファンを増やす。 ・漁協は、引き続き地元の飲食店や商工会等との連携により、地場水産物のメニュー化やフェア開催等で船橋の水産物の認知度を高め、新たな販路の開拓につなげる。
---------------------	--

	<p>④ 低・未利用資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、碎石覆砂試験区で利用可能な低・未利用資源の有効活用策を実施する。 ・漁協は試験操業で再捕したアカエイを「三番瀬みなとや」等で販売を開始する。 <p>⑤ 漁業就業者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会及び船橋市と連携して、担い手対策の事業を活用することで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。
漁業コスト削減のための取組	<p>① 燃油高騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業経費の増加に備えるため、漁協は漁業者の漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、国のリース事業等を活用して漁船船体、機関の更新を図り、燃費を向上させる。 ・漁業者は、定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、不要不急の船内積載物の除去、減速走行の徹底等を実施して燃油消費量を減らす。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産環境整備事業 ・水産物ブランド推進事業（市） ・漁業後継者対策事業（市） ・新規漁業者対策事業（市） ・新規漁業者研修受入事業（市） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ・競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・漁業経営セーフティーネット構築事業

4年目（令和5年度） 以下の取組により漁業所得を基準年比8.8%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>① 漁業生産の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産環境整備事業等の漁場整備事業を活用して採貝漁場を造成し、アサリ等貝類資源の増大を図るとともに、青潮、出水等による資源の減耗を緩和させる。 ・採貝漁業の協議会は、造成漁場において効率的な漁業生産を行うための提言を漁協に対して行う。漁協と採貝漁業の生産グループは提言に沿って、造成漁場の利用に関する内規を作成する。 ・漁協は、引き続き、採貝漁場においてアカエイの駆除を目的とした試
--------------	---

	<p>験操業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、前年度同様、1年を通して必要な量の氷を入手でき、氷不足による操業時間の短縮等がなくなる。 ・漁協においては、前年度同様に製氷事業の収益が見込まれ、引き続き漁業振興に努める。 ・漁協及び漁業者は、船橋市漁協資源管理計画に基づく取組内容を継続させる。 <p>② 品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協及び漁業者は、引き続き製氷事業の拡大を受けて、漁獲から出荷までの品温管理を徹底する。なかでも千葉ブランド水産物の「三番瀬産ホンビノス貝」、「江戸前船橋瞬めすずき」に関しては、瞬め等により一層の鮮度保持を図り、ブランドを揺るぎないものにする。 ・漁業者は、引き続き漁船の更新による漁獲性能の向上をもって操業時間を短縮させ、漁獲物の品質向上のための作業時間を増やす。 ・漁業者及び仲買業者は、瞬めするスズキの量を前年度水準で維持する。 <p>③ 消費拡大対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、引き続き水産物直売施設「三番瀬みなとや」において生鮮魚介類及び水産加工品を販売する。また、利鞘の大きい調理品の品目、販売量を増やす。また、引き続き新たな地域で出張販売を行い、船橋の水産物の知名度向上と消費圏域の拡大に努める。 ・漁協は千葉県や船橋市と連携して、引き続き千葉ブランド水産物（三番瀬産ホンビノスガイ、江戸前船橋瞬めすずき）のPRイベントや小学生の漁業体験を行い、船橋の水産物のファンを増やす。 ・漁協は、引き続き地元の飲食店や商工会等との連携により、地場水産物のメニュー化やフェア開催等で船橋の水産物の認知度を高め、新たな販路開拓につなげる。 <p>④ 低・未利用資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、アカエイや利用可能な低・未利用資源を「三番瀬みなとや」等での販売を実施する。 <p>⑤ 漁業就業者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会及び船橋市と連携して、担い手対策の事業を活用することで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油高騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油急騰による漁業経費の増加に備えるため、漁協は漁業者の漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。

	<p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、国のリース事業等を活用して漁船舶体、機関の更新を図り、燃費を向上させる。 ・漁業者は、定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、不要不急の船内積載物の除去、減速走行の徹底等を実施して燃油消費量を減らす。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産環境整備事業 ・水産物ブランド推進事業（市） ・漁業後継者対策事業（市） ・新規漁業者対策事業（市） ・新規漁業者研修受入事業（市） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ・競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・漁業経営セーフティーネット構築事業

5年目（令和6年度） 以下の取組により漁業所得を基準年比1.3、3%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>① 漁業生産の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に続いて水産環境整備事業等の漁場整備事業を活用して採貝漁場を造成し、アサリ等貝類資源の増大を図るとともに、青潮、出水等による資源の減耗を緩和させる。 ・漁協の活動グループは、造成漁場における貝類生息状況等のモニタリングを行い、問題があれば対応策を講じ、継続中の漁場造成事業にフィードバックさせる。 ・漁協は、引き続き、採貝漁場においてアカエイの駆除を目的とした試験操業を行う。 ・漁協においては、前年度同様に製氷事業の収益が見込まれ、引き続き漁業振興に努める。 ・漁協及び漁業者は、船橋市漁業資源管理計画に基づく取組内容を継続させる。 <p>② 品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協及び漁業者は、引き続き製氷事業の拡大を受けて、漁獲から出荷までの品温管理を徹底する。なかでも千葉ブランド水産物の「三番瀬産ホンビノス貝」、「江戸前船橋瞬々すずき」に関しては、瞬々等により一層の鮮度保持を図り、ブランドを揺るぎないものにする。 ・漁業者は、引き続き漁船の更新による漁獲性能の向上をもって作業時間を短縮させ、漁獲物の品質向上のための作業時間を増やす。
--------------	--

	<p>・漁業者及び仲買業者は、瞬々するスズキの量を前年度水準で維持する。</p> <p>③ 消費拡大対策</p> <p>・漁協は、引き続き水産物直売施設「三番瀬みなとや」において生鮮魚介類及び水産加工品を販売する。また、利鞘の大きい調理品の品目、販売量を増やす。また、引き続き新たな地域で出張販売を行い、船橋の水産物の知名度向上と消費圏域の拡大に努める。</p> <p>・漁協は千葉県や船橋市と連携して、引き続き千葉ブランド水産物（三番瀬産ホンビノスガイ、江戸前船橋瞬々スズキ）のPRイベントや小学生の漁業体験を行い、船橋の水産物ファンを増やす。</p> <p>・漁協は、引き続き地元の飲食店や商工会等との連携により、地場水産物のメニュー化やフェア開催等で船橋の水産物の認知度を高め、新たな販路の開拓につなげる。</p> <p>④ 低・未利用資源の活用</p> <p>・漁協は、アカエイや利用可能な低・未利用資源を「三番瀬みなとや」等での販売を継続するとともに、販売イベント等で船橋の新名物としてのPRを行う。</p> <p>⑤ 漁業就業者の確保・育成</p> <p>・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会及び船橋市と連携して、担い手対策の事業を活用することで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油高騰に対する備え</p> <p>・燃油急騰による漁業経費の増加に備えるため、漁協は漁業者の漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。</p> <p>② 省燃油活動の推進</p> <p>・漁業者は、国のリース事業等を活用して漁船舶体、機関の更新を図り、燃費を向上させる。</p> <p>・漁業者は、定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、不要不急の船内積載物の除去、減速走行の徹底等を実施して燃油消費量を減らす。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産環境整備事業 ・水産物ブランド推進事業（市） ・漁業後継者対策事業（市） ・新規漁業者対策事業（市） ・新規漁業者研修受入事業（市） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ・競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業

・漁業経営セーフティネット構築事業

(4) 関係機関との連携

- ・地元の流通業者と連携してスズキの瞬ダや販売対策など魚価向上に取り組む。
- ・地域の飲食業等とも連携し、地域の活性化、地産地消を推進する。
- ・新規就業者支援の事業活用にあたって、千葉県地域漁業担い手確保・育成支援協議会と連携する。

4 目標

(1) 所得目標 (対象漁家合計)

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 26～30 年度：漁業所得	円令和 6
	目標年	年度	：漁業所得 円

(2) 上記の算定方法及びその妥当性

別添資料のとおり

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化支援事業	内容：現在の製氷施設を製氷能力の高い新施設に更新。 関連性：氷不足を解消し、漁獲物の品質向上による魚価の向上と漁協製氷事業の収益増を図る。
水産多面的機能発揮対策事業	内容：当該海域の海域条件に適応したアサリ漁場造成手法の開発及び採貝漁場におけるアカエイの駆除。 関連性：アサリの安定的生産のための技術開発及びアカエイ駆除によるアサリ生残率の向上。
水産環境整備事業	内容：当該海域の海域条件に適応したアサリ漁場の造成。 関連性：事業化により当該海域のアサリ生産量の維持増大を図る。
水産物ブランド推進事業 (市)	内容：船橋の魚のPR活動やブランド化の取組の費用を支援。 関連性：魚価向上による漁業収入増を目指す。
漁業後継者対策事業 (市)	内容：漁協青壮年部組合員の漁具購入費の支援。 関連性：次代の漁業者を育成し、持続的な漁業の振興を図る。
新規漁業者対策事業 (市)	内容：新規就業者の漁船、漁具等の購入費の支援。 関連性：次代の漁業者を育成し、持続的な漁業の振興を図る。
新規漁業者研修受入事	内容：新規就業者の研修を行う漁業者を金銭面で支援する。

業（市）	関連性：次代の漁業者を育成し、永続的な漁業の振興を図る。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	内容：生産性の向上、省力・省コスト化に資する漁船、機器等の導入を支援。 関連性：操業時間の短縮に伴い、漁獲物の付加価値化に注力できる。燃費の向上により漁業コストを削減できる。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	同上
水産業成長産業化沿岸地域創出事業	同上
漁業経営セーフティネット構築事業	内容：燃油急騰時における金銭支援。 関連性：燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、安定した漁業所得を確保する。